

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

本年度は、研究の重点を「全員参加で、よりよい考えをつくる伝え合い活動の充実」として、『主体的に考え、伝え合う子をめざして』という主題に迫るための研究を進めてきた。研究内容の5つについて実践してきた成果と課題を記述する。

1 分科会別での成果と課題（「学びの基本」と研究の重点について）

（1）「学びの基本」について

<成果>

低学年分科会

- ・チャイムで着席し、学習の準備をすることや片づけと次時の学習の準備をして休み時間をする習慣が身についてきている。
- ・話している人を見て聞くことができるようになってきた。
- ・簡単な発問に対して、進んで挙手し発表する子が多くなった。

中学年分科会

- ・次の学習の準備はほぼできている。
- ・問い返しを入れていくことで、より集中して聞くことができるようになってきた。また、話形表のモデルに沿った言い方の練習をすることで、聞きやすい話し方ができるようになった。
- ・挙手が増え、ノートも集中して書けるようになってきた。

高学年分科会

- ・チャイムで着席、学習の準備、授業のふり返りと片付けはどのクラスでもしっかりできている。
- ・話形表は、話し合いのモデルとして伝え合い活動に効果があった。
- ・話している人を見て聞くことは身に付いてきたが、最後までしっかり聞くことについては、6年生でできている。

<課題>

低学年分科会

- ・姿勢がくずれやすい。
- ・発表の声が小さく、聞き取りにくい子がいる。課題が少し難しいと、自信がなく発表する子が限られてくる。

中学年分科会

- ・姿勢を維持することが難しい。
- ・自信を持ち、場に応じた声で話すことがまだ難しい。

高学年分科会

- ・発表する声が小さい。
- ・簡単な発問に対しては挙手するが、思考を伴うことになると極端に減る。

(2)「全員参加で、よりよい考えをつくる伝え合い活動の充実」について

<成果>

低学年分科会

全員挙手や全員発表の場の設定によって

- ・朝の会のスピーチで順番に話したり、質問をしたりすることで全員の子が話すことができた。
- ・始業時に題名や課題などでは、ほぼ全員挙手ができた。
- ・ペアや小グループの場を設定することで、全員の子が話す機会をもつことができた。
- ・音読や群読の声だし訓練をすることによって、はきはきと声を発することを楽しいと思う子が増えた。
- ・子ども同士の励ましや教師の自信につながる言葉掛けをすることによって、勇気や意欲を喚起し、発表意欲につながった。

中学年分科会

- ・既習の確認をすることで、公式等どこに目をつけるか視点を与えると、みんなが考えを持つことができた。
- ・基本をしっかり定着させることで、多様な考えが生まれた。
- ・班での話し合いは、進行係を決め、全員に経験させることで、考えをまとめることができるようになってきた。
- ・班や小グループでの話し合いを何度も経験させることで、違いや同じところを考えてグループの考えをつくっていけるようになってきた。
- ・「聞く」ことに重点を置いて指導してきた。ただ聞くだけでなく、違いや同じところを意識して聞いたり、聞いたことからつなげて話そうとする子が増えてきた。
- ・班での話し合いで多様な考えを出し、それを全体で検討するような展開だと、よりよい考えに向かって伝え合うことができた。
- ・ちさか学級では、「…。どうですか？」と問いかける言い方を自然にするようになった。交流の成果と考える。

高学年分科会

- ・班で司会を輪番制にしたり、子ども同士がはげまし合えるクラス作りに取り組むことで、話し合いが上手になってきた。
- ・「同じです」という反応に根拠をつけて発言させることで、考えながら聞き合う習慣が身に付いてきた。
- ・共通点と相違点を意識して聞いたり話したりすることを繰り返すことで、発表が深まり伝え合いができるようになってきた。また、切り返しの発問をすることによって、ねらいに迫る話し合いになった。
- ・書くことを取り入れることによって、発表に自信がない子も挙手するようになった。
- ・視聴覚機器の活用や生活に密着した資料の提示により、児童の学習意欲が高まったり解決の見通しが明らかになったりして、話し合いが活発になった。

<課題>

低学年分科会

「自分の意見を言う」という段階では、充分とは言えないが、できるようになってきた。伝え合う学習＝つながっていく学習を目指していきたい。そのためには、子ども同士がつながっていくように、教材研究、発問、板書、資料提示、話し方指導などの手立てが必要である。

中学年分科会

- ・全体の声は大きくなったが、一人一人にするとまだ弱い。中には、かろうじて聞き取れるくらいの声量の子もいる。また、常に働きかけないと声が小さくなる。
- ・今は発表しているが、すでに挙手をしない子がいることを考えると学年が上がっても続けていけるか疑問である。
- ・自分の意見は言えるが、友達の意見を受けてつなげて話せる子はまだまだ少ない。

高学年分科会

- ・発言の声が小さい。また、先生に対して話す傾向があり、誰かに対して自分の考えを分かってほしいという相手意識が弱い。
- ・ペアやグループで話し合うことは好むが、一人ひとり発言することが苦手である。

2 全校としての成果と課題

(1)「学びの基本」について

<成果>

- ・「5つの約束」の掲示は、学習に対する心構え規律を教師や児童自身がふり返ったり評価したりするのに効果があった。また、「話形表」「聞き方モデル」も話し方・聞き方の基本として児童自らが確認したり発表の手助けになったりした。
- ・チャイムで着席することや学習の準備をする習慣が身についたことで、チャイムと同時に学習に向かう心構えができ、集中して学習に取り組むことができるようになった。
- ・話形表のモデルに沿った言い方を意識することで、聞きやすい話し方ができるようになったり、発表が苦手な児童も話すことができるようになったりした。
- ・学習のふり返りが身に付き、書くことへの抵抗が減ると共に次時の授業への心構えづくりができた。

<課題>

- ・授業の始まりではきちんと背筋が伸び、床に足が着いているが、時間と共に姿勢が崩れていってしまう。その都度、注意したりきちんとしている子を褒めたりしていきたい。
- ・事実問や簡単な発問に対して、発表する児童は増えたが発表する声が小さい。がんばりを褒めたり自由に自分の思いを発言できる学級作りに努める必要がある。また、「〇〇さんに聞いてもらいたい」「〇〇さんに言いたい」という相手意識を育てることも必要である。

(2) 基礎・基本の定着

<成果>

- ・国語、算数の基礎・基本についてのテストでは、全校平均が87.8点であった。
- ・基礎・基本をしっかり定着させることで、思考に広がりが見られ、多様な考えが出るようになった。
- ・読書の時間は、どのクラスも静かに読書する姿が見られた。また、4年生以下での図書ボランティアの読み聞かせも本にふれ親しむ良い機会となっている。
- ・辞書引きや読み聞かせの後にあら筋を決められた字数で書くなど、学力調査の結果を踏まえた工夫が見られた。

<課題>

- ・内容について、学年やクラス任せになっている面があり、学年や学校として共通理解してより意義のある時間とすることが大切であると思われる。
- ・教科の時間が、規定時数の補填になっている。きちんと基礎・基本の補充として活用していくことが大切である。

(3) 認め合う学級づくり

<成果>

- ・児童一人一人の状態やクラスでのあり方が分かり、児童理解と居心地の良い学級づくりに役立った。
- ・学年や学校全体としての傾向や個を知ることで、共通理解が図られると共に支援が必要な児童への対応に役立った。

<課題>

- ・全ての土台は学級経営にある。より児童にとって安心して自己表出できる居心地のいいクラス、認め合える集団づくりになるよう分析をしっかりと活用していくことが大切である。

(4) 授業研究

① 全員参加について

<成果>

- ・授業の始まりを全員挙手できる事実問や既習の学習などにしたこと、学習に向かう姿勢が整うと共に集中して学習に入ることができた。
- ・既習の確認をすることで、前時の学習の理解度を測ることができると共に、本時の学習への見通しを持つことができた。
- ・ペアや班、小グループでの話し合いを何度も経験させることによって、自信を持って挙手する児童が増えると共に違いや同じところを考えてグループでの考えをつくっていけるようになってきた。
- ・子ども同士の励ましや教師の自信につながる言葉掛けをすることによって、勇気や意欲を喚起し、発表意欲につながった。
- ・班での話し合いでは、進行役を全員にさせることで考えをまとめることができるようになってきた。

<課題>

- ・簡単な事実問でも挙手しない子がいる。全員で学習に向かう姿勢をつける必要がある。
- ・基礎・基本がしっかり身に付いていないため、学習に対する意欲が見られない児童がいる。全員参加をめざすためには、休み時間や教科の時間を使って基礎・基本を身につけさせたり、授業での支援の充実を図ったりしていくことが必要である。

② よりよい考えをつくる伝え合い活動の充実について

<成果>

- ・基礎・基本をしっかり定着させることで、多様な考えが生まれ話し合いも活発になった。
- ・「聞く」ことに重点を置いて指導してきた。ただ聞くだけでなく、違いや同じところを意識して聞いたり、聞いたことからつなげて話そうとする子が増え、話し合いもつながるようになってきた。
- ・班での話し合いで多様な考えを出し、それを全体で検討するような展開だと、よりよい考えに向かって伝え合うことができた。
- ・ちさか学級では、交流学級の成果で「…。どうですか？」と問いかける言い方を自然にするようになった。
- ・共通点と相違点を意識して聞いたり話したりすることを繰り返すことで、発表が深まり伝え合いができるようになってきた。また、切り返しの発問をすることによって、ねらいに迫る話し合いになった。
- ・書くことを取り入れることによって、発表に自信がない子も挙手するようになった。
- ・視聴覚機器の活用や生活に密着した資料の提示により、児童の学習意欲が高まったり解決の見通しが明らかになったりして、話し合いが活発になった。

<課題>

- ・発言の声が小さい。できたことを褒めたり励ましたりしているが、なかなか大きくなならない。また、自分の考えを分かってほしい、伝えたいという相手意識も弱い。そこで、「カ」…（～ですか）、「ネ」…（～ですね）、「ショ」…（～しよう）のような「カーネーション言葉」は相手を意識した話し方であり、聞き手も反応を示すことが必要な話し方である。話し方、聞き方の基本として、カーネーション言葉を話せる子にすることは、つながっていく子にするために大切な要素であると考えられる。
- ・ペアやグループで話し合うことは好むが、自分の意見を言うことが苦手である。本校の児童は、学習アンケートや学力調査（P18～ 3、アンケート参照）でも進んで発表したり自分に自信を持っている子が少ないことが分かった。自分に自信を持たせ、自己肯定感を高めるために褒めたり生活指導部と連携を取りながら居心地の良い学級・学校作りに努めていくことが大切である。
- ・発表する児童は増えてきたが、「よりよい伝え合い」にはまだ十分ではない。そのために、以下の3点に力点を置いた試みが必要であると考えられる。

- ア 子ども同士がつながっていくように、教材研究、課題提示の仕方と課題、発問、板書、資料提示、話し方指導などの手立てをとる。
- イ 友達の伝えたいことが理解でき、伝えたいことを的確に伝えるために児童に言語能力をつける。その手立てとして、辞書引きや読書を推進したり、ニュース、新聞にふれさせたりすることで、言語環境を整えたり教科特有の言語の日常化を図ったりしていく。
- ウ ノート指導を充実することによって、自分の考えをはっきりさせたりまとめたり、次時の学習に生かすことができる。また、ねばり強く学習する1つの手立てともなる。そこで、学習の中に必ず書くことを取り入れていく。

(5) 授業力向上

①授業を見合う週間の実施

<成果>

- ・感想を伝え合うことで交流を図ることができ、学校としての授業力の向上に結びついたと思われる。
- ・「特に同学年の先生の板書が参考になった。」「普段の授業でも、学習課題をしっかりつかますことが大事だと思った。」「細かい指導や声掛けなど、子どもとの接し方や扱い方やクラスの雰囲気など、見習う点が多く、自分の授業を見直す良い機会となった。また、観てもらって、一言メモなどにアドバイスや指摘してもらって、今後の授業で気をつけるポイントが分かり大変ありがたかった。」などの感想から、参考になる点が多くあった。
- ・研究授業では、なかなか観ることができない他分科会の授業を見に行くことができたことは、全校の児童の様子を掴むのにも役立った。

<課題>

- ・11月に実施したが、学級づくりが土台となるので4、5月頃にも設定していくことが大切だと思われる。来年度は、実施期間を検討していきたい。
- ・本校は、生徒指導上の問題がある児童が多いため、空き時間もその対応に追われることが多い。そのため、まだ普段の授業を見に行くことに遠慮している職員もいる。全員が参加できる体制を考えていきたい。

②実技講習の実施

2月3日、体育実技講習を行った。跳び箱運動とマット運動での実技と安全な回り方や跳び方を研修した。

<成果>

- ・短い時間であったが、全職員での研修は職員の一休感が感じられた。
- ・マット運動では、前転や後転の安全で簡単な仕方が提示された。跳び箱でも恐怖で閉脚跳びができない児童への手立てが分かりやすく提示され、よく分かった。
- ・すぐ役立つ内容だったので、実際の授業に役立った。

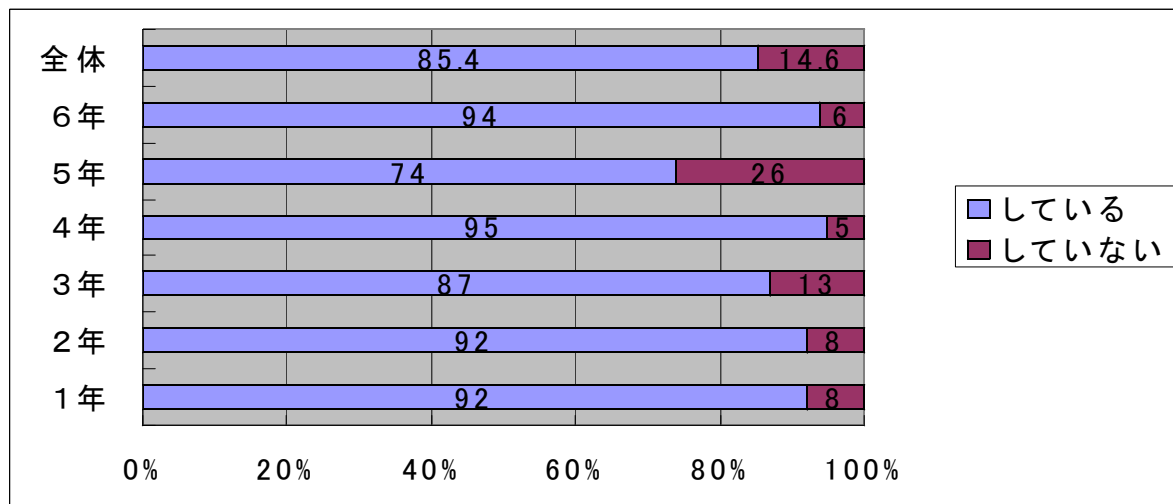
<課題>

- ・寒い時期になってしまったので、教育課程と照らし合わせ、計画的に適切な時期に設定していきたい。
- ・小学校では、全科の指導が必須である。今後いろいろな教科で実施していきたい。

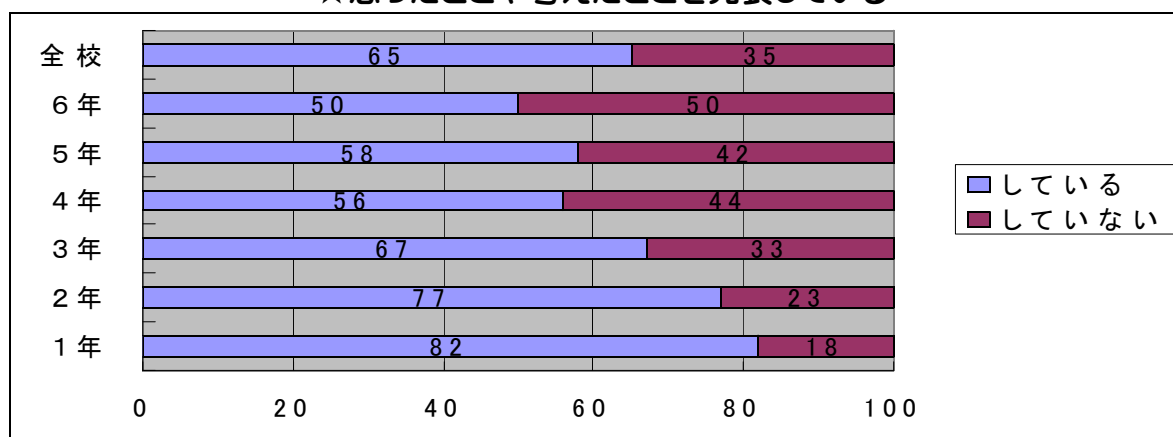
3 参考資料

(1) 学習アンケート結果（研究の主題・重点に関するもの）

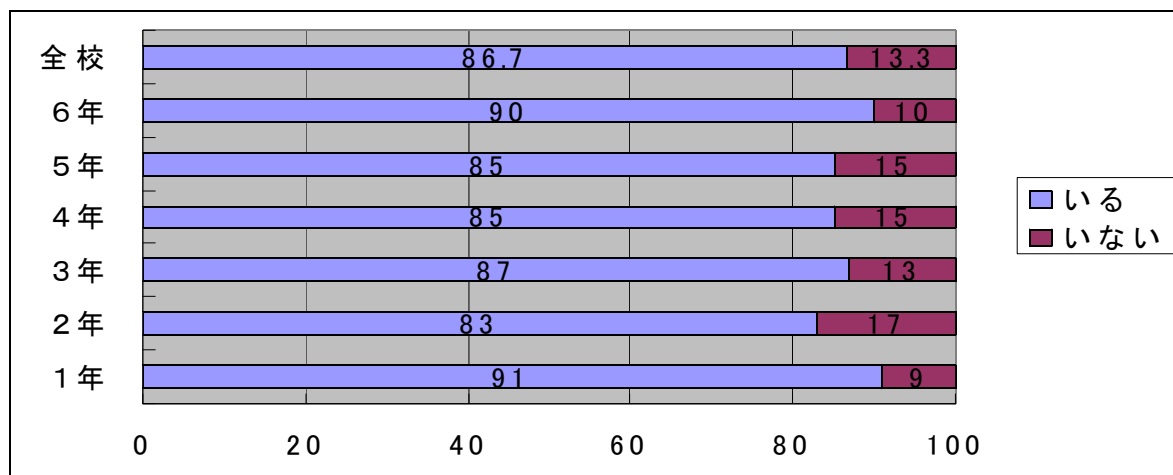
★課題について一生懸命考えようとしている



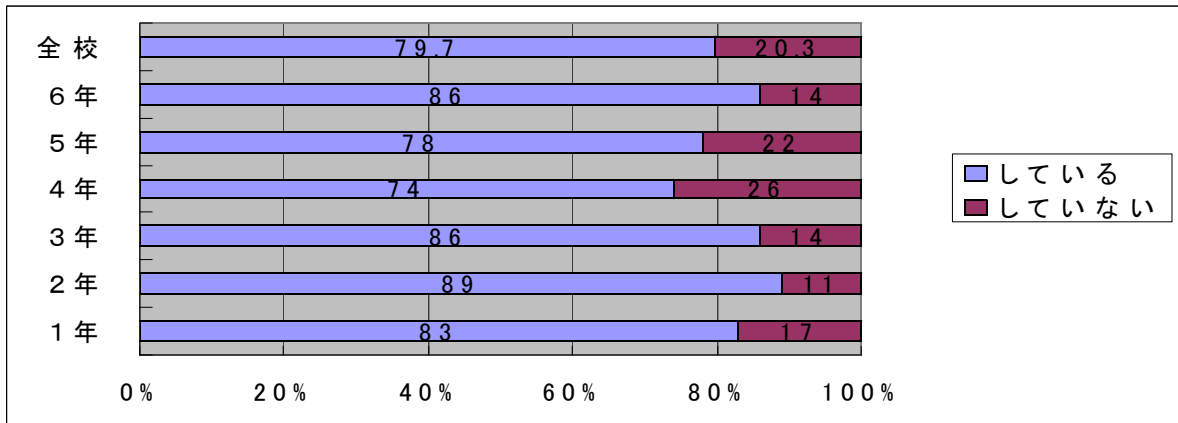
★思ったことや考えたことを発表している



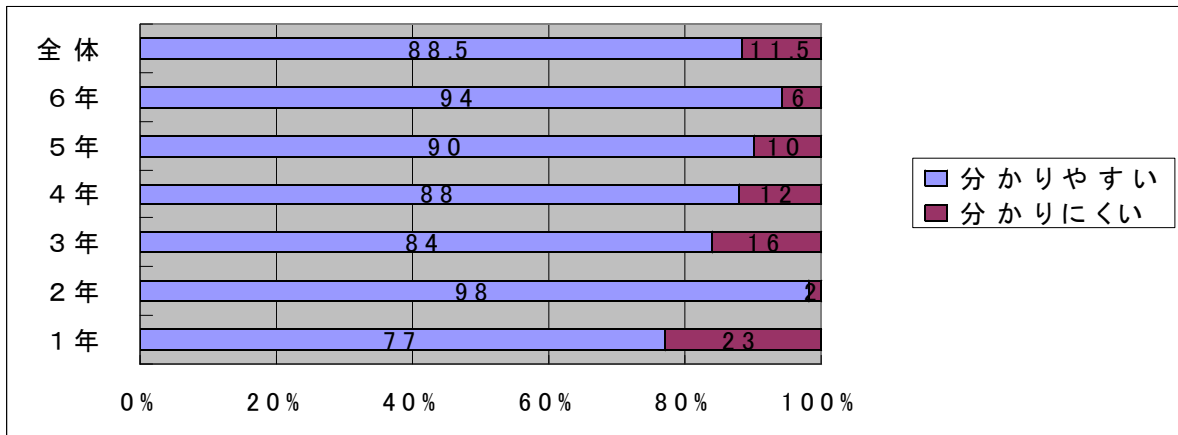
友達の意見を聞いている



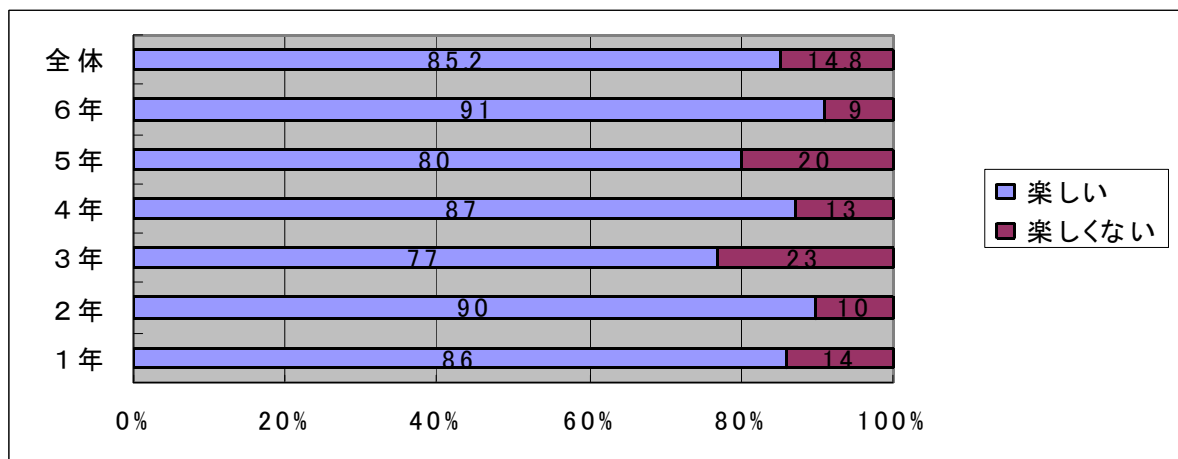
★学習に集中している



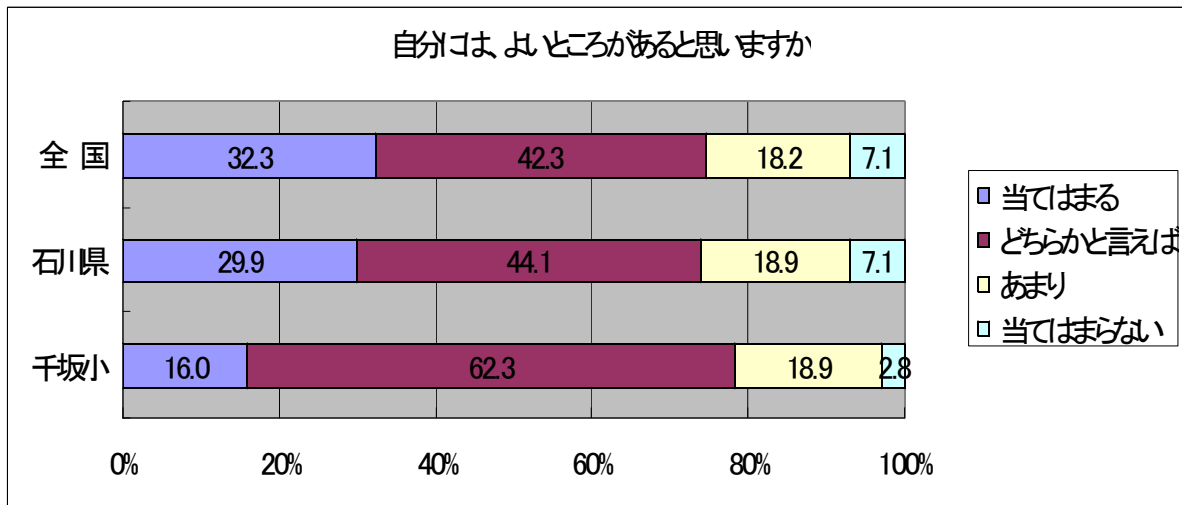
★授業は分かりやすい



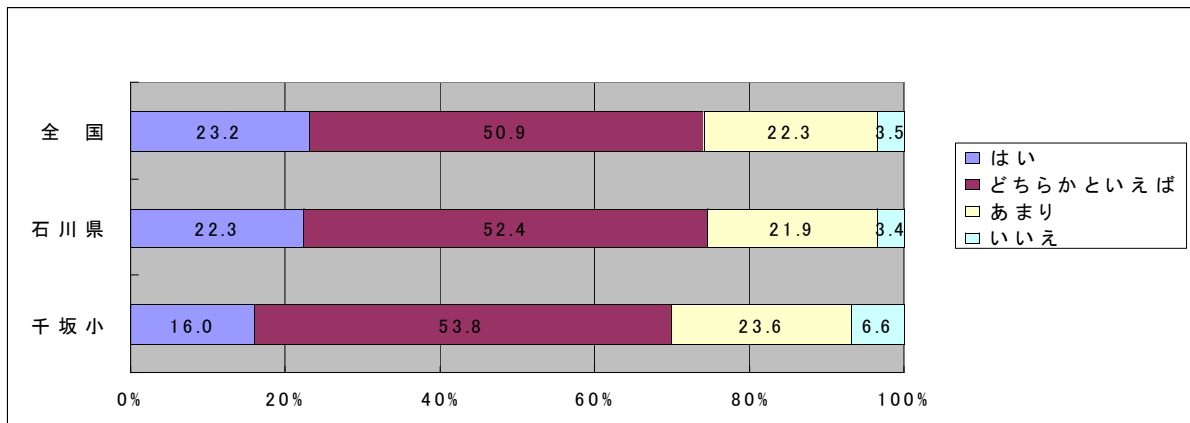
★授業は楽しい



(2) 全国学力調査・質問紙調査より



難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦していますか



※教師にとっても児童にとっても「学校が楽しい」と言えることが理想である。そのためには、「授業が楽しい」と思えることである。「楽しい」とは、すなわち児童にとって「授業が分かる」ということであり、教師にとっては「みんなが理解できた」という喜びと達成感であろう。そんな「楽しい学校（授業）」をめざして、今年度出てきた課題を学校が1つになって解決していきたい。